

# 夕&Eye

世界

途中下車

櫻井 寛

去る六月二十四日の夕刻、一足先にスイス入りしていた私は、インターレーケン・ヴェスト駅にて大井川鉄道元副社長、白井昭さんの到着を今や遅しと待っていた。

日本からヨーロッパへのフライトは長時間に及ぶ。年に何度も渡欧する私だが狭い機内に十時間以上も缶詰めになるのは辛い。白井さんは今年で八十歳。さぞやお疲れではと心配していたが、いつもと変わることなく、さっそうとした姿にほっと安どした。

白井さんが当コラムに登場するのは二回目である。前回は二〇〇五年十二月、台湾の阿里山鉄道

## 3 姉妹鉄道結ぶ日本人 ——— ■スイス

のシェイ式蒸気機関車復活運転の際に、その機関車とともに登場をお願いした。白井さんが長年にわたって勤務された大井川鉄道と阿里山鉄道は姉妹鉄道という関係で、その提携に尽力されたのが、当時副社長だった白井さんなのである。

その白井さんが今度はスイスへとというわけだが、何を隠そう、スイスのBRB(フリエンツ・ロートホルン鉄道)もまた、大井川鉄道と姉妹鉄道なのである。しかも縁組は一九七七年。今年でちょうど三十周年という記念すべき年なのだ。かくして翌二十五日、BRB鉄道にて姉妹提携



姉妹提携30周年のセレモニーが開かれた(右から2人目が白井さん)

三十周年の記念行事が行われた。登山列車に乗車し標高二千二百九十八メートルのロートホルン山頂駅へ。アイガーやユングフラウ山を望みつつ昼食会となる。そして復路は、姉妹機関車「金谷号」にてフリエンツ駅へと戻りセレモニーが行われた。

BRB側は社長以下五人、一方、日本側は白井さんを団長に十五人という規模だが、特筆すべきことは今回、台湾の阿里山(フォトジャーナリスト)が初参加したこと。BRBから白井さんに「煙に託す夢」と染め抜かれた日本&ドイツ語のポスターが贈られた。BRB、大井川鉄道、阿里山鉄道の共通点が蒸気機関車なのだ。最後に「三つの姉妹鉄道がガッチリ握手できました。ありがとうございます」と、うれしそうにあいさつをした白井さんが印象的だった。(フォトジャーナリスト)